

令和元年度 学校評価報告書

園名	三田市立松が丘幼稚園
----	------------

1 教育目標

「元気な子 心豊かな子 たくましい子」
 自己を発揮し、のびのびと活動する子を育む
 友だちと思いを伝え合い、心を通わせて遊ぶ子を育む
 自ら考え、工夫し挑戦しようとする子を育む

2 今年度の重点目標

『自分らしさを発揮し、共に育ち合う子の育成』
 ～幼児が自ら動き出す姿を支えるための、教師のかかわりを考える～
 学年 4歳児 安心して自分の思いを出し、友達とかかわりながら遊ぶ楽しさを味わう。
 5歳児 友達と一緒に思いや考えを伝え合いながら、主体的に遊びや生活を進める楽しさを味わう。

3 総合的な自己評価

今年度の5歳児の姿を振り返ると、昨年の4歳児の時期に、心の安定がしっかりと保障され、周りの大人や友達から十分に受け入れられ、様々な経験を心の中に蓄えてきたことが分かる。その経験をもとに、自分たちで目標意識をもった活動や、友達と意見を交わし合って進めていく姿など、幼児の育ちを大きく感じることができた。就学前になると、自分たちの姿を客観的に見て行動できるようになり、「もっとこうしよう」「自分たちならできる」と、仲間と団結して取り組む姿まで見られた。4歳児は、安心して自分から動き出すには個人差があるため、教師は個々の思いに丁寧に寄り添いながら、個々のタイミングで動き出せるよう支えていった。魅力的で真似したくなる5歳児がすぐ近くにいることで、憧れの気持ちを持ち、自分もやってみようという意欲につながり、2学期後半には、次第に自分たちで何とかしようと、友達と一緒に考えたり、力を合わせたりする姿が見られるようになってきた。このような様々な経験を通して、目標をもち達成に向かう力、友達と協力して取り組む力、自分の気持ちをコントロールしようとする力が育まれていくと考える。

4 総合的な学校関係者評価

1年間を通して、幼児一人一人が自信をつけ、友達と一緒に楽しく遊んだり、発表したりする姿を見ることができた。4・5歳児のかかわりによって、憧れや期待感をもって活動し、幼児が自ら意欲的に取り組んだり、挑戦したりすることができていた。4歳児は、友達のことを思いやり、自分のできることを考えたり、クラスの友達と助け合って進めていく姿があり、大きな成長を感じることができた。5歳児は、自分たちで考えて自分たちで進めていく活動の中で、仲間とのつながりが強くなり、お互いに信頼し合える仲間になっていると感じた。
 一人一人が自分のこととして考える、人任せにしないで自分も頑張る、時間がかかっても自分たちで話し合っ決めていく、といったことができる少人数の良さが十分にいかされており、一人一人の育ちや、集団としての成長を感じることができた。もっとたくさんの幼児に、このような保育が提供できるよう、地域や就園を考えている方への情報発信の工夫が課題である。

5 評価結果

		自己評価		学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程	学びに向かう力を豊かに育む保育内容の充実 ・幼児の興味関心に寄り添い、幼児が目標に向かって粘り強く挑戦しようとする力を育む保育内容の工夫 ・4、5歳児が共に育ち合える交流の工夫 ・幼児一人一人の課題や発達する姿に応じたかかわりや環境構成の工夫	・幼児が安心して自ら動き出せるよう、教師は幼児との信頼関係を築き、周りに目が向けられるようなかかわりをしていた。そのことにより、4歳児が5歳児の姿に刺激を受け、憧れの気持ちをもって挑戦する姿や、5歳児が任される経験を通して、自分たちでやり遂げようとする姿につながっていった。 ・幼児一人一人の発達段階を把握し、職員の共通理解のもと、個別に対応していくことで、幼児が落ち着いて生活したり、周りの友達のことを考えて行動したりすることができた。	・幼児一人一人が、伸び伸びと自己を発揮できるよう、また、よく考え、友達と思いを出し合っって遊びや生活を進めていけるよう、引き続き、援助のあり方や保育内容を工夫していきたい。 ・今後も幼児一人一人に応じたかかわりができるように、教師間で連携を図っていきたい。	・幼児が自分がしたいことを十分にさせてもらっていることが分かる。遊びや活動を楽しんでいる4歳児と、真剣に取り組む5歳児、1年の成長を感じる。 ・少人数であるが、一人一人が自分の力を発揮して、友達と心を合わせて取り組むことができていた。 ・5歳児が4歳児のことを気にかかけたり、4歳児の前で頑張ろうとする姿が頼もしい。
	幼児が自ら体を動かして遊ぶための環境づくり ・幼児の様々な動きや体力づくりにつながる遊びの場づくりの工夫 ・芝生園庭を活かした遊びや、「わくわく体操」の充実	・テラスの環境として、鉄棒やフラフープ、ボール遊びなど、空いた時間にすぐに挑戦できるように整えることで、進んで取り組んだり、何回も繰り返し挑戦したりする姿があった。 ・天気の良い日は、芝生の園庭で思い切り体を動かして遊べるように時間をつくっていった。鬼ごっこやサッカーなど、伸び伸びと遊ぶ姿が見られた。	・引き続き、様々な体を動かす遊びに挑戦する姿を受け止め、個々の意欲やできた時の喜び、うまくいかない悔しさに共感していく。	・自分で目標を決めて、何度も繰り返し挑戦したり、自分なりに表現したりする姿がとても良い。先生が、じっくりと待ってあげたり、ゆったりとした時間の中で付き合っている姿勢が良い。
保護者・地域との連携	園運営及び園行事への保護者や地域住民の参画 ・地域住民との交流、連携の推進(老人会、ふれあいサロン等) ・保護者の芝刈り支援や、PTA活動を通して、保護者同士や園とのつながりを深め、幼稚園教育への理解・協力を図る ・親子で絵本に親しむことができる機会や、読み聞かせ活動の工夫	・老人会の方や、ふれあいサロン交流では、地域の方から昔遊びを教えていただいたり、一緒に季節を感じながら、七夕や焼き芋など、触れ合いを楽しんだりすることができた。 ・運動会において、5、6年生のお手伝いを募り、放送、準備等を担当してもらったことで、保護者の負担軽減につながった。 ・絵本の分類・整理をし、貸し出しカードを作ったことで、絵本の貸し出し数も増え、親子で楽しく選ぶ機会となっている。	・幼児と地域の方が触れ合うことで、それぞれに温かい気持ちもてるような時間としたい。 ・行事の持ち方について、幼児や保護者の方に無理のない内容や進行を検討していきたい。	・運動会では、5・6年生のお手伝いがあったおかげで、ゆったりと我が子を見ることができた。 ・PTAの数が少ないけれど、あまり負担を感じることなくできて良かった。 ・毎週の絵本の貸し出しを、親子で楽しみにしている家庭が多い。引き続き、開いてほしい。
子育て支援	親と子の交流や育ちの場としての役割、機能の充実 ・2、3歳児プレ保育や園庭開放における活動内容の工夫 ・安心して参加でき、親と子、職員がつながることができる場の工夫	・毎月4日、14日、24日を芝生の日とし、幼児の妹、弟を受け入れて園児と一緒に芝生園庭で遊ぶ機会とした。また、毎週金曜日に絵本の部屋を開放することで、未就園児も絵本を借りたり、遊んだりすることができた。 ・絵本箱「松の実」の方による読み聞かせでは、わらべうたを取り入れた遊びに親しみ、親子で楽しむ時間となった。	・アンケート結果をみても、園における子育て支援は充実してきている。 ・地域の子育て家庭への支援となるような取り組みについて、思索していきたい。	・下の子が幼稚園で遊ぶ機会を楽しみにしている。プレ保育では、集団の中での我が子の様子が見られるのでとても良い。 ・園児数が減少しているため、ニュータウンからも来てもらえるような子育て支援を考えていくと良い。
異校種間の連携	幼小の接続と学びの連続性を見据えた取り組みの推進 ・互惠性のあるかかわりがもてる、八景中校区の幼・小・中交流の工夫 ・幼小の円滑な接続をめざした交流・連携の推進	・隣接する小学校との計画的な交流、連携を推進することができた。5年生との交流は、ペアの小学生との継続した取り組みにより、安心してかかわり合う姿が見られた。 ・1年生との交流により、就学への期待を膨らませたり、見通しをもったりすることができた。	・引き続き、隣接する松が丘小学校との連携を図り、進学後の姿を見通した取り組みやかかわりを進めていきたい。	・小学生との交流は、園児も児童も楽しみにしている。どちらにとっても良い経験となっているので、引き続き連携を図りながら進めてほしい。 ・少人数なので、他の幼稚園との交流の機会も考えていくと良い。